



ボーダフォン株式会社

2005年3月期 決算説明会

2005年 5月 24日



津田 志郎

代表執行役会長

ジョン・ダーキン

代表執行役最高財務責任者(CFO)

決算ハイライト: 連結

■ 対前年比較

- 売上高および経常利益の減少: 固定通信事業を2003年10月1日から連結除外のため2桁減少

■ 予想実績比較

- 売上高: 移動体通信事業売上減少のため、4.0%未達
- 経常利益: 経費抑制に成功し、予想を20.8%上回る
- 当期利益: 法人税等調整額899億円が希望退職制度および固定資産除却損に係る特別損失を相殺し、予想を47.3%上回る

■ 2005年度中に東証および大証からの上場廃止が予定される

(単位:十億円)	2003年度	2004年度		前年 同期比	実績/ 会社予想
		会社予想	実績		
営業収益	1,655.7	1,531.0	1,470.0	-11.2%	-4.0%
移動体通信事業	1,508.8	-	1,470.0	-2.6%	-
経常利益	181.2	127.0	153.4	-15.4%	20.8%
当期利益	-100.0	110.0	162.0	nm	47.3%

決算ハイライト： 移動体通信事業

■ 電気通信事業収入は前年比4.7%減少

- 加入者純増数：89,300加入 (04年度) vs 1,039,100加入 (03年度)
- ARPU：前年6,730円から6,150円へ (前年比8.6%減)

■ 営業利益は前年比14.0%減少

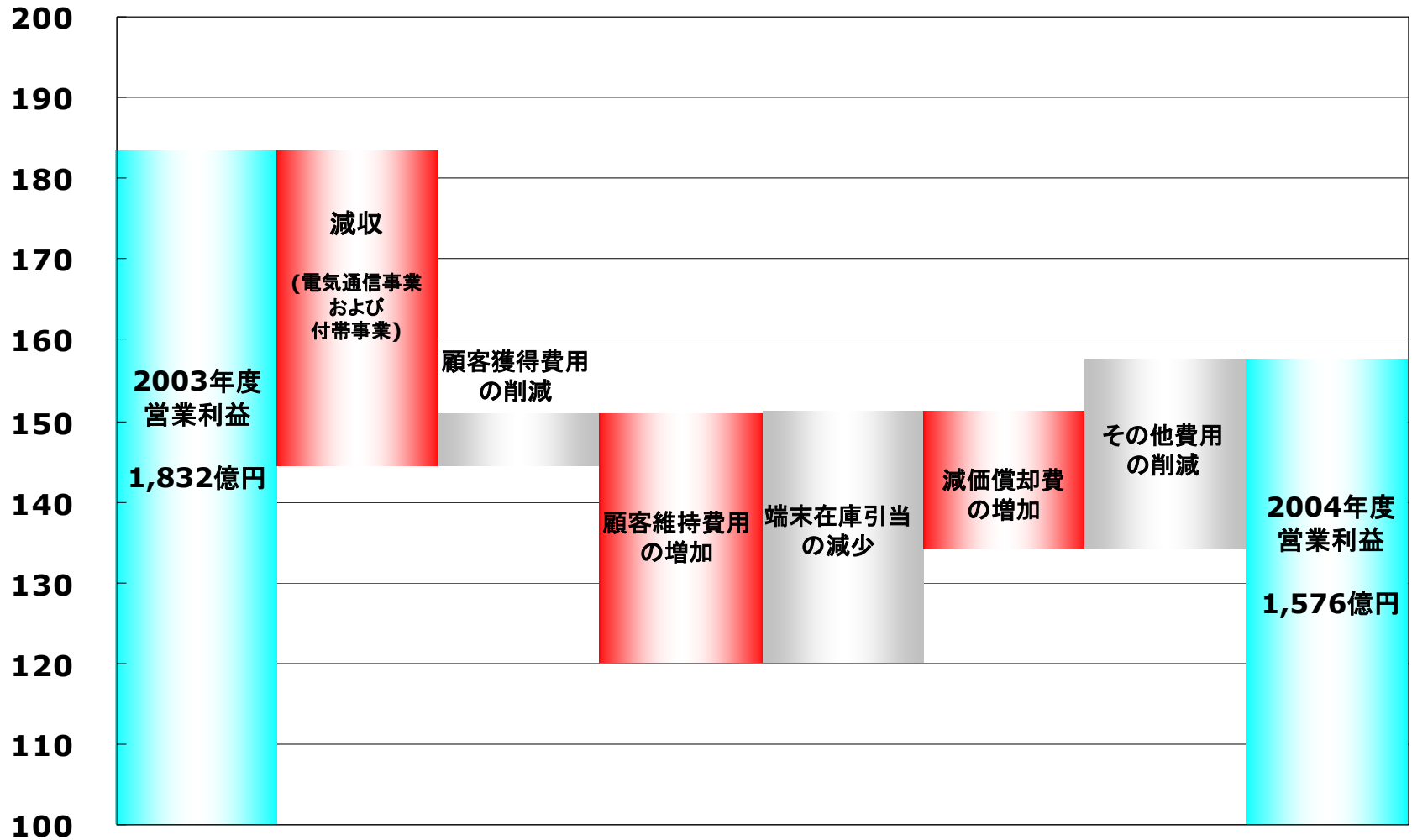
- 電気通信事業収入の低下と顧客維持費用の増加を、顧客獲得費用の減少、端末在庫の改善および一般管理費の抑制で一部相殺
- 3Gサービス関連設備投資の継続により、減価償却費が増加

■ 設備投資額：1,667億円 (キャッシュフローベース)

(単位：十億円)	2002年度	2003年度	2004年度	前年同期比 (%)
売上高	1,461.0	1,509.1	1,470.2	-2.6%
電気通信事業収入	1,156.6	1,206.4	1,150.1	-4.7%
営業費用	1,217.3	1,325.9	1,312.6	-1.0%
営業利益	243.7	183.2	157.6	-14.0%
経常利益	239.5	181.8	153.8	-15.4%
当期利益	137.8	110.7	186.9	68.8%
EBITDAマージン	30.0%	27.7%	27.4%	- 0.3 pp

ボーダフォン(移動体通信): 営業利益

(十億円)



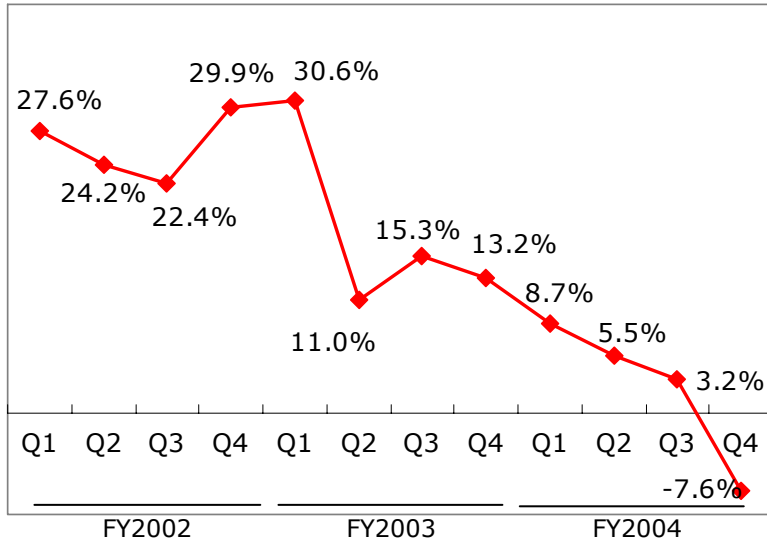
: 減少要因



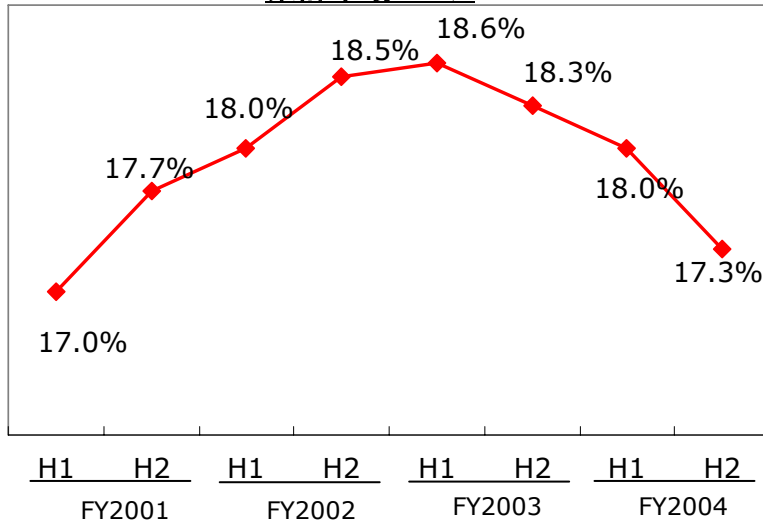
: 増加要因

加入者およびARPUの動向

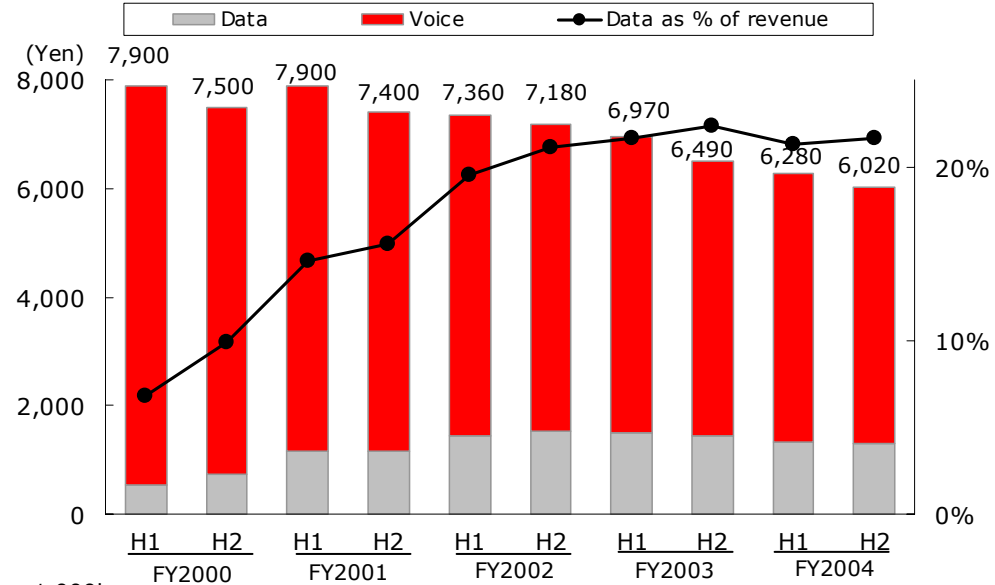
純増シェア



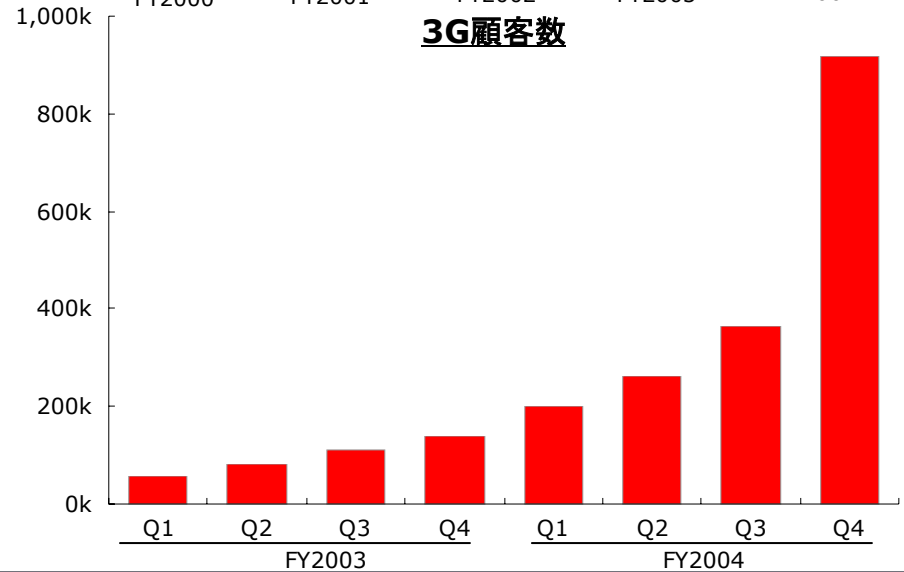
累計市場シェア



ARPU

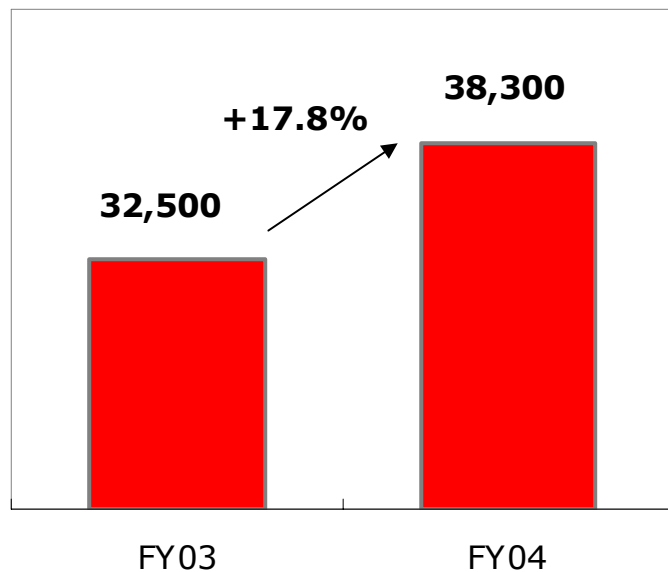


3G顧客数

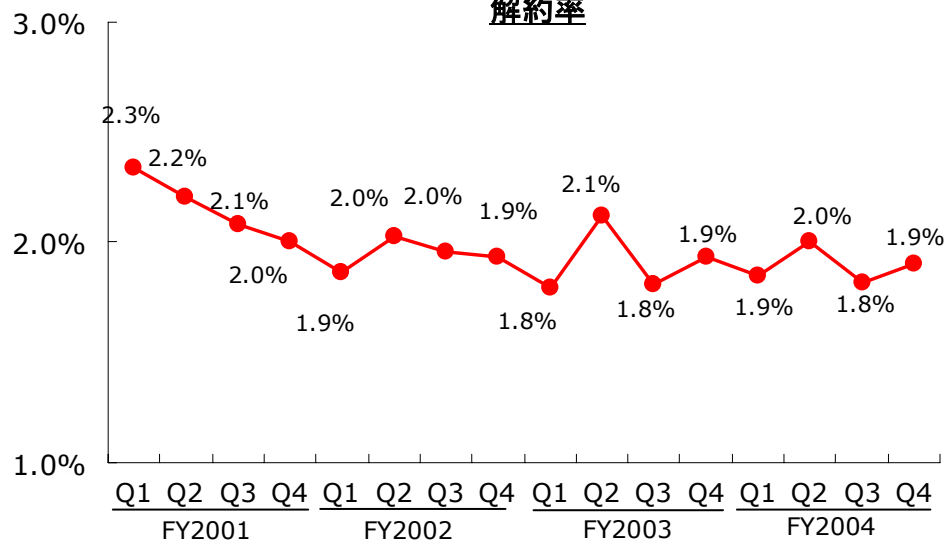


顧客獲得費用、解約率、買換率

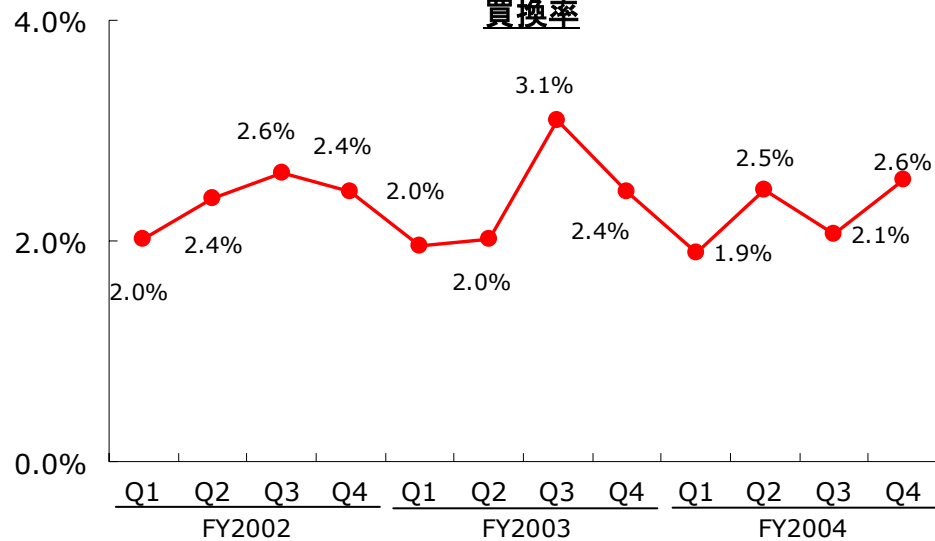
新規顧客獲得費用



解約率



買換率



■ 地域会社9社から1社への統合

➤ 主要ビジネスシステムの統合完了

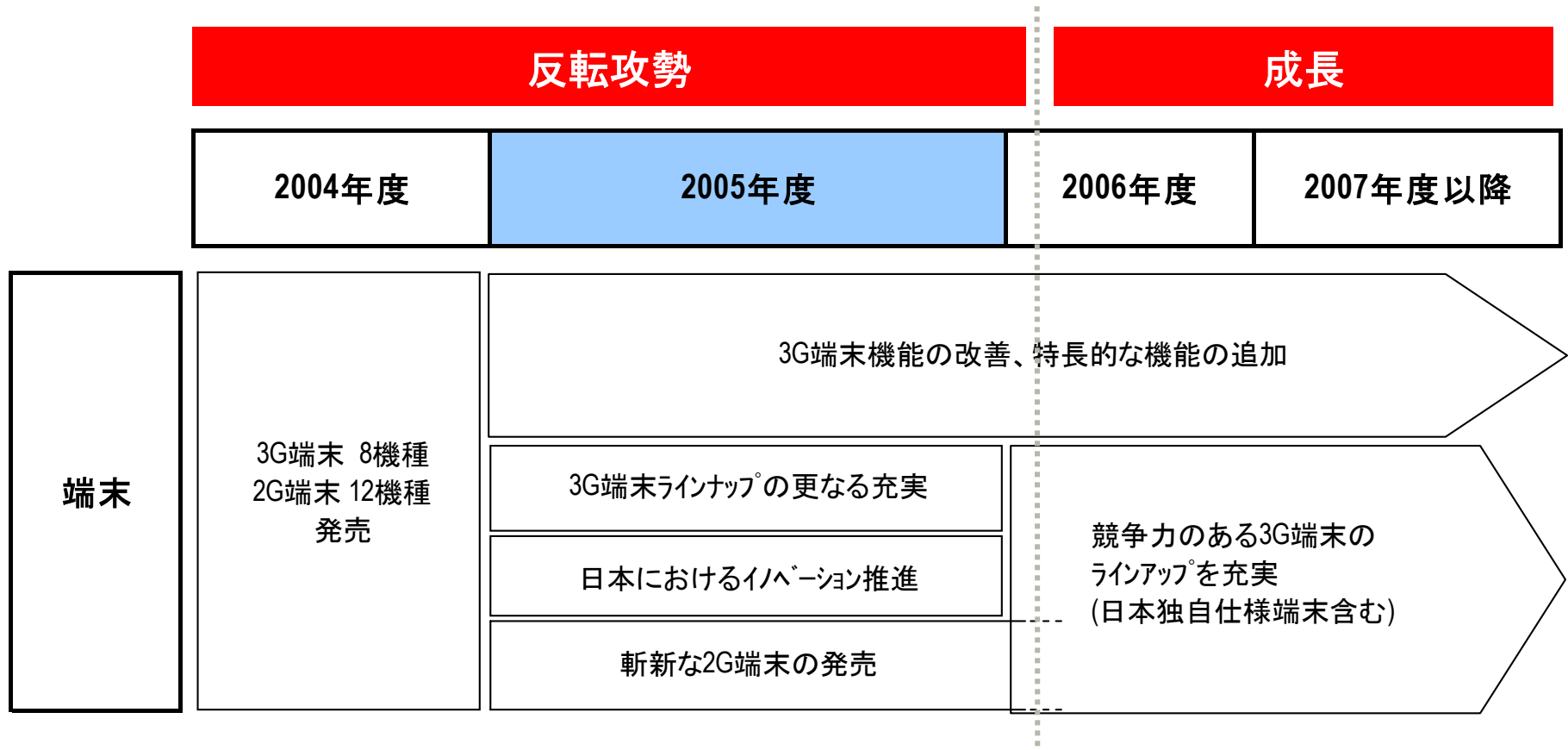
- 東日本コールセンター (2003年度)
- ネットワーク管理拠点 (2004年度)
- 端末倉庫のロジスティック・ネットワーク (2004年度)
- ERPシステム (2004年度)
- ショップ登録業務 (2004年度)
- インセンティブおよび手数料計算業務システム (2004年度)
- 代理店へのインボイス発行業務 (2004年度)

➤ 課金システムの統合: 2004年度に開発方針を変更し、進行中

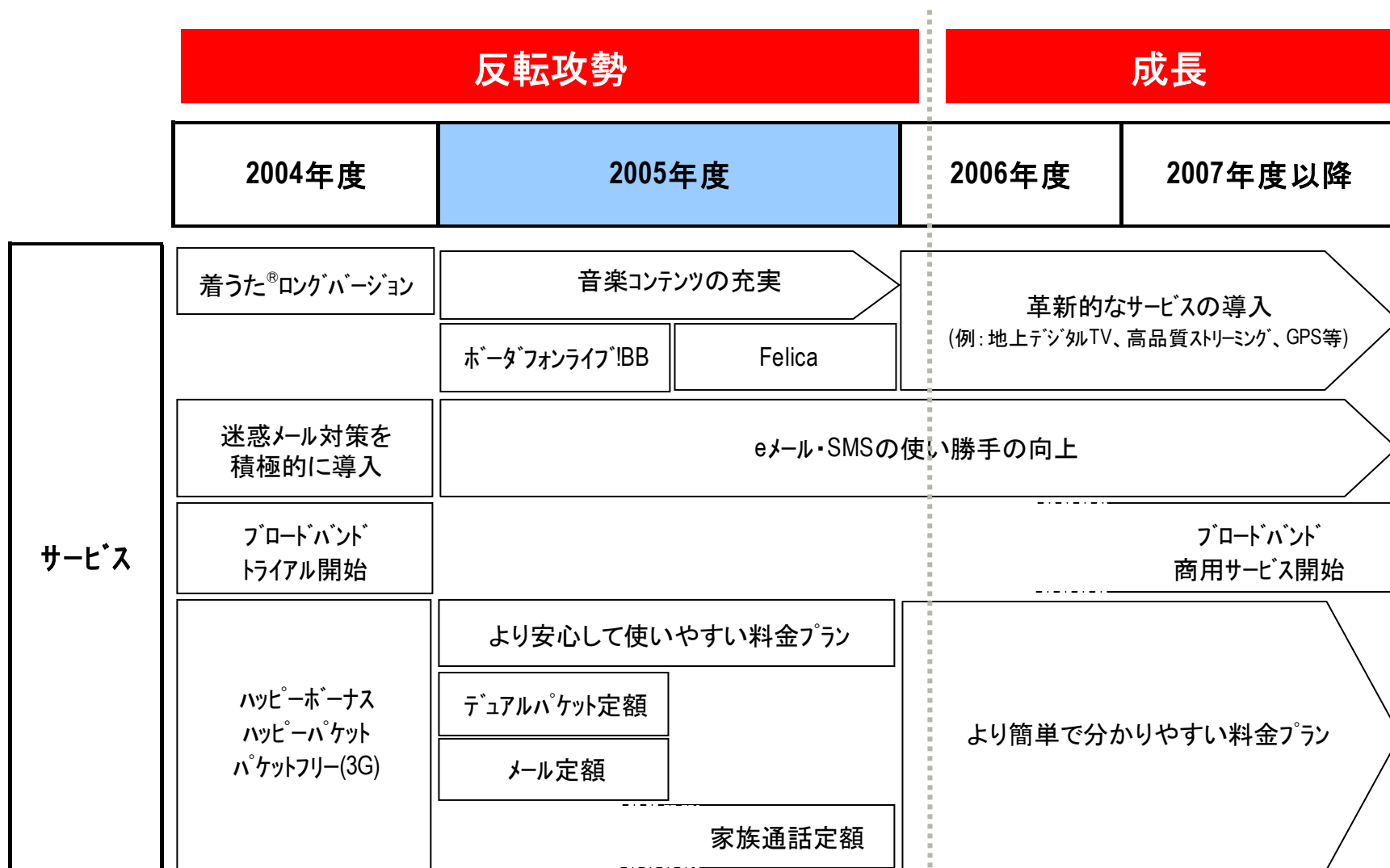
■ コスト構造の改善

- ダーク・ファイバーの有効活用
- 一般管理費を削減

業績回復へのマイルストーン (1) : 端末

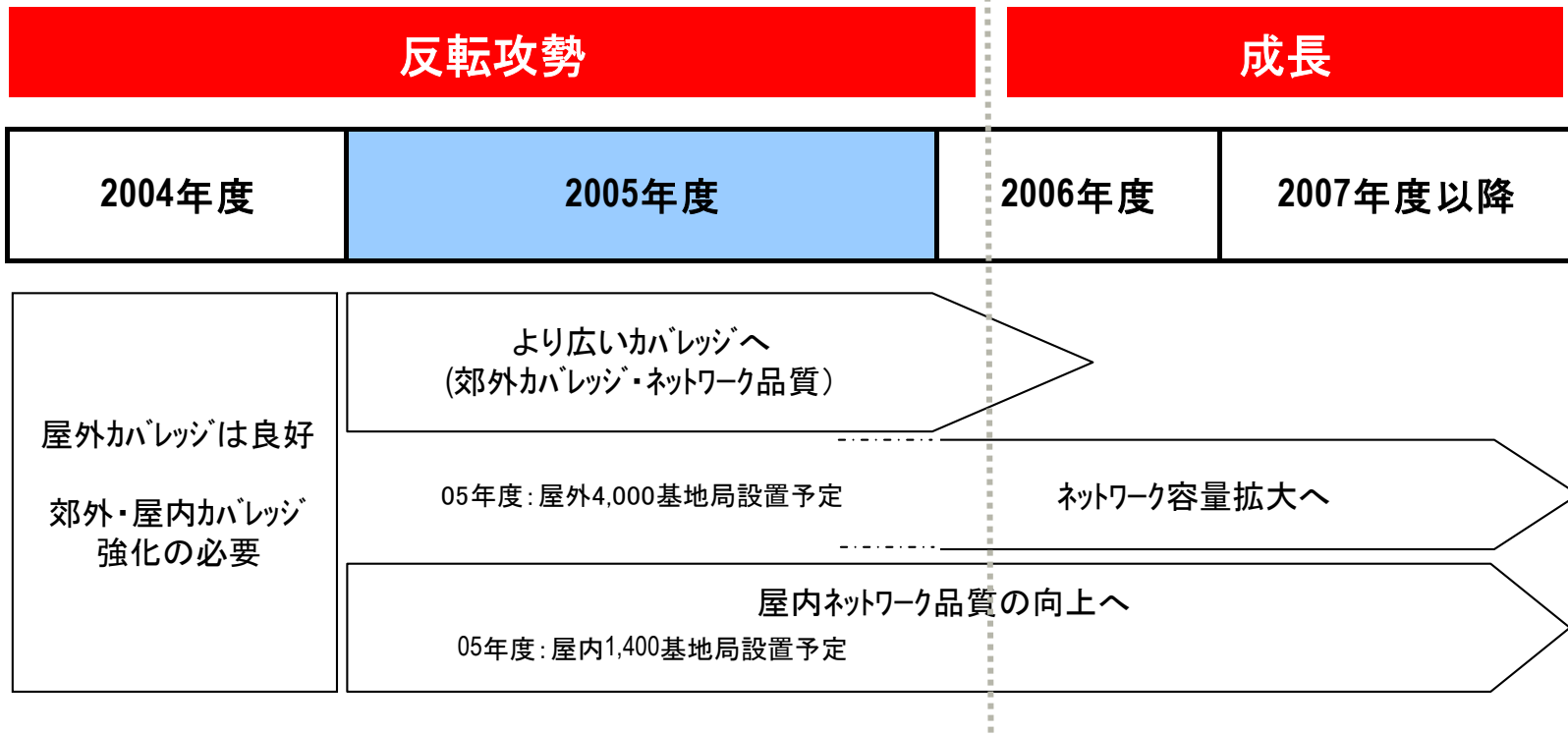


業績回復へのマイルストーン (2): サービス・価格



着うた[®] は、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

業績回復へのマイルストーン (3) : 3Gネットワーク



業績回復へのマイルストーン (4) : 顧客

	反転攻勢			成長		
	2004年度	2005年度		2006年度	2007年度以降	
お客さまからのイメージ	顧客満足度の低下	端末・ネットワーク改善の顧客認知向上			2006年度以降顧客満足度の大幅な向上	
月次顧客純増数	純減へ転落	純減継続	純減から純増	純増シェアの改善	競争力のある純増シェア	

ご清聴ありがとうございました

ボーダフォン株式会社

A member of the Vodafone Group

将来にわたる記述について

本プレゼンテーションには、ボーダフォン株式会社及びそれらの子会社（以下、「ボーダフォン日本グループ」）の事業・戦略、財務・営業の結果に関する予想、日本の固定及び移動体通信市場の趨勢や設備投資に関する予測等将来にわたる記述が含まれています。こうした将来にわたる記述は、その性質上当然ながら、予測ないし想定を述べたものに過ぎず、将来の状況に左右されるものであるため、リスク及び不確実性を伴います。

将来実際に発生する事態や状況が、将来にわたる記述において明示したものないし暗黙裡に想定していたものとかかなり異なったものとなる要因には、さまざまなものがあります。例えば、経済の状況が変化し、それによって、ボーダフォン日本グループのサービスに対する需要に悪影響が出るような場合、競争が考えていたよりも激しくなるような場合、顧客数の伸びが鈍化したり、顧客のつなぎとめがより困難になるような場合、ネットワーク容量への投資や、3G技術をはじめとする新技術の利用が設備投資に及ぼす影響、技術的なパフォーマンスが期待値を下回ったり、業者のパフォーマンスがボーダフォン日本グループの要求する水準を満たせない可能性、移動体通信業界における成長率の予測に生じる変化、ボーダフォン日本グループの収益予想モデルの正確性やモデルへの変更、ボーダフォン日本グループが提供するデータサービスの今後の収益に対する貢献度、ボーダフォン日本グループが3Gサービスを中心とする新しいサービスを導入できる能力およびキーとなる商品・サービスの提供及び遂行、ボーダフォン日本グループの活動の規制の枠組みにおける変化、ボーダフォン日本グループその他業界各社を巻き込む訴訟その他の法的手続きの影響、等が挙げられます。

ボーダフォン日本グループないしその代表・代理たる者が、本プレゼンテーション中で、あるいはその後に、将来にわたる記述をなした場合には、書面でなされたか口頭でなされたかを問わず、すべて上述の前提のもとになされたものとします。